

DDW-Japan 2005 アンケート調査報告

DDW-Japan 2005 (日本消化器関連学会週間) 神戸は、5学会参加での開催となりました。各学会長の先生方、運営委員の先生方、および各学会の事務局をはじめとする多くの関係各位のご尽力のお陰をもちまして、過去に類を見ない15,006名の参加者をお迎えし、盛会裏のうちに学会を終了することが出来ました。

2005年も例年同様アンケート調査に、多数の参加者各位より貴重なご意見を頂戴いたしました。DDW-Japan 2005 全体については、約80%の参加者が普通以上の満足度を示しております。また、現行の DDW 方式については、73%の方々より続行すべきのご意見を頂戴しております。主題数等については50%が適切とご回答をいただいております。しかし、多い、やや多いとの指摘が約30%に達するなど課題点もあると思われまます。

今後も各学会と連携を密にし、最善の努力を図って参りたいと考えております。参加者各位より一層のご意見、ご教示を賜りますようお願い申し上げます。

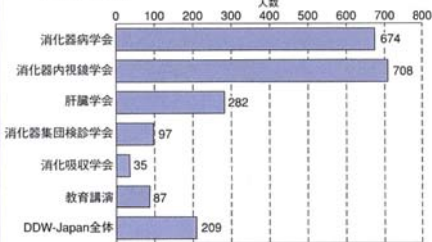
DDW-Japan 2005 運営委員会

- 第47回 日本消化器病学会大会
会長 大西 三朗 (高知大・消化器病態学)
- 第70回 日本消化器内視鏡学会総会
会長 竜田 正晴 (大阪府立成人病センター)
- 第9回 日本肝臓学会大会
会長 熊田 博光 (虎の門病院)
- 第43回 日本消化器集団検診学会大会
会長 三木 一正 (東邦大・消化器内科)
- 第36回 日本消化器学会総会
会長 松枝 啓 (国立さいがた病院)

はじめに

DDW-Japan 2005 (日本消化器関連学会週間) は、2005年10月5日(水)から8日(土)までの4日間にわたり、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本肝臓学会、日本消化器集団検診学会、そして日本消化器学会の5学会が参加し、ポートピアホテル、神戸国際会議場、そして神戸国際展示場にて開催された。参加者は、ついに15,006名となり、前回の14,098人を大幅に超えて DDW-Japan 発足以来の新記録が樹立された。今回も、学会参加者に対して計16項目アンケート調査を実施したところ、1,175名より回答が得られた。回収率は約7.8%であったが、DDW-Japan の実態や問題点を浮き彫りにする上で貴重なデータが収集されたと考えられる。以下に、その主な項目を抜粋し、その結果を報告する。

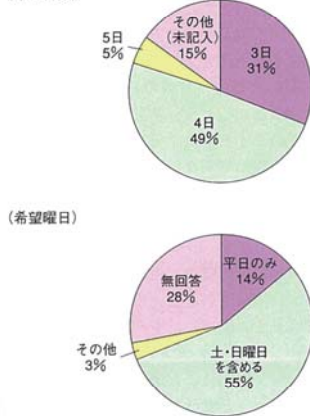
【図1】今回、どの学会を主な目的で参加されましたか?
(複数回答可)



開催希望日数と曜日について

希望する学会日数は「3日」が31%、「4日」が49%で4日の支持が最も多く現状の開催が支持を得ている結果であった。開催曜日については「土曜・日曜を含める開催」が55%と最も多く、開業医や勤務医が出席し易い週末に開催して欲しいとの要望とも解釈される。また、その他の意見の中でも日曜日を希望する意見が多く、一考に値するデータと考える。

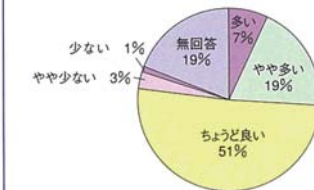
【図4】開催希望日数と曜日について
(希望日数)



主題数について

シンポジウム、パネルディスカッション、ワークショップなどの主題数については「ちょうど良い」が51%であり、現状で問題無いと考えられた。しかし、「多い」と回答した人が7%、そして「やや多い」が19%であり、また各学会で類似の主題が存在していたとの意見もあったため、学会間でより一層の主題統合を行うことが必要とも考えられる。

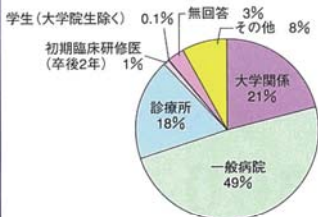
【図7】主題数について



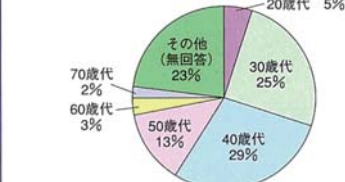
回答者の背景：所属施設、年齢層、参加目的

大学関係者 (247人 21%)、一般病院 (580人 49%)、診療所 (210人 18%) で、年齢層では30歳代が25%、40歳代が29%、50歳代が13%であり30~40歳代が回答者の半数以上を占めた。「どの学会を主な目的で参加されましたか?」との質問では、例年のごとく「消化器病学会」と「消化器内視鏡学会」が主な目的であるとする回答が大多数であり、「DDW-Japan 全体として参加した」との回答は約10%に見られたのみであった。今後、DDW-Japan が個々の学会の集合体として発展するためには、各学会が共同で開催するテーマや方式に工夫が必要なことを示唆しているデータとも解釈された。

【図2】カテゴリー



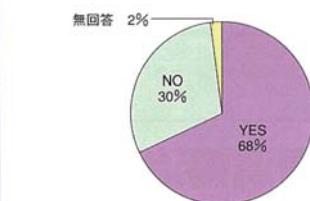
【図3】年齢層



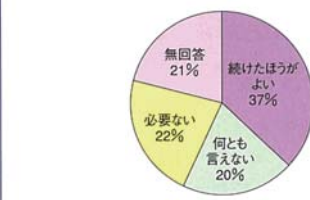
ホームページと CD-ROM 抄録集について

ホームページを通じて「演題登録を自分でした」と回答した人は35%であったが、「操作性が良い」、「やや良い」がそれぞれ33%、そして「普通」が26%であり問題が無いと考えられた。CD-ROM 抄録集の配布に対する質問に関しては、「続けたほうがよい」が37%、「何とも言えない」が20%、「必要ない」が22%、そして「無回答」が21%であり、2004年のアンケート(「続けたほうが良い」が44%)に比較して「続けたほうが良い」がやや低下しており、配布対象に対して一考する必要がある可能性が示唆された。

【図5】DDW-Japan 2005に演題申込をしましたか?



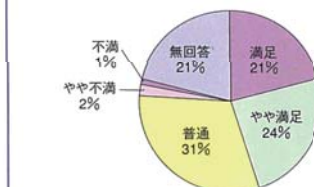
【図6】DDW-Japanホームページより過去の抄録が検索可能ですが、CD-ROM抄録集の配布は



コンピューター発表について

「満足」、「やや満足」を合わせると45%であり、「普通」の31%を合計すると76%が肯定しており、「不満」と「やや不満」の合計がわずか3%であったことから明らかな様にコンピューター発表が定着してきた事が示唆された。本年度からは、司会や座長席にもディスプレイを設置したため、司会や座長の先生方が発表スライドを見やすくなったと好評であった。しかし、発表者がレーザーポインターを使って演壇上のスライドを指し示したために司会や座長のディスプレイでは確認できない事が問題であった。今後、発表者はレーザーポインターではなく、コンピューターの矢印マークで指し示す様にすれば、司会や座長席でも演者がスライド上で指し示す箇所を確認し易くなると考える。

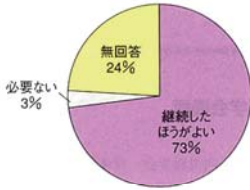
【図8】コンピューター発表について



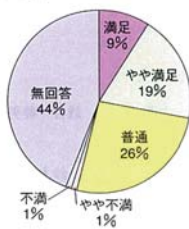
合同セッション、教育講演、医療研修について

「合同セッションは継続したほうがよい」との回答は73%であり、「必要ない」はわずか3%であり、合同セッションは昨年に続き高い支持を得ていることが示された。教育講演については、「満足」9%、「やや満足」19%、「普通」26%と肯定的評価が過半数をやや上回る結果であった。特に、「無回答」が44%と肯定的意見と同等であった事が問題であったが、今後の希望テーマについての意見に、「疾患に対するもの」、「手技に関するもの」、「画像に関するもの」などの要望が散見された。医療研修会における今後のテーマについての意見でも、「疾患をテーマにしたもの」、「処置や手技に関するもの」が多く寄せられており、教育講演との住み分けが十分理解されていない可能性が示唆された。今後、教育講演における方向性を明確に示す事が必要であろう。

【図9】合同セッションについて



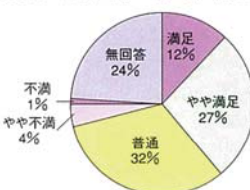
【図10】教育講演について



ブラック・ランチョン・サテライトについて

ブラックファーストセミナー、ランチョンセミナー、そしてサテライトシンポジウムなどのスポンサーイベントに関しては、「満足」が12%、「やや満足」が27%、そして「普通」が32%と肯定的意見が7割を超えていた。個別の意見では、人気のあるランチョンの席を増やして欲しい(7名)、チケット配布の場所をもっと便利なところへ(5名)などの意見が見られた。

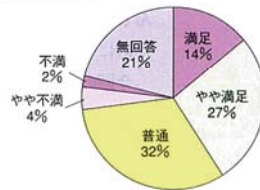
【図11】ブラック・ランチョン・サテライトについて



会場運営について

「満足」が14%、「やや満足」が27%、そして「普通」が32%であり73%が評価していた。一方、「不満」と「やや不満」を合わせて6%であったが、広すぎて不便(13名)、案内がわかりにくかった(13名)などの意見があったことから案内表示の方式を一考する事が、より満足のいく会場運営に繋がると考えられた。

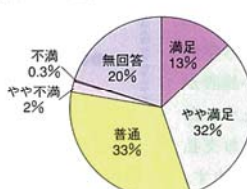
【図12】会場運営全般について



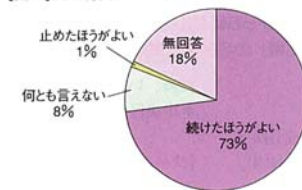
今回の DDW 全体について、DDW 方式について、DDW に参加して欲しい学会について

今回の DDW 運営については、「満足」が13%、「やや満足」が32%、「普通」が33%であり、計78%が今回の運営を評価した。DDW 方式についてのアンケートでも「続けたほうがよい」が73%であり、「止めたほうがよい」はわずか1%であり、DDW 方式の続行を支持する結果であった。DDW に参加して欲しい学会としては、現行の5学会以外に脾臓・胆道・消化器外科・大腸肛門病学会の参加希望が多く、「真の DDW 開催」の観点からも参加学会を増加させる努力が必要であろう。

【図13】今回の DDW 全体について



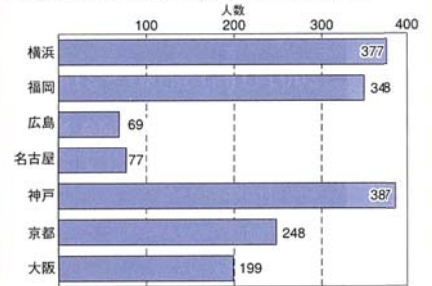
【図14】DDW方式について



過去の DDW 開催地で印象が良かった会場について

最も印象の良かった会場は今回の開催会場と同じ神戸であり、次いで横浜会場、そして福岡会場が高い支持を受けたことが示された。今後の開催場所の決定に参考となるデータであろう。

【図15】過去の DDW 開催地で印象が良かった会場について



その他「全体的な意見」からのまとめ

その他の意見は77件寄せられた。肯定的意見としては、神戸の会場は交通の便が良く、会場同士が近くて移動し易く、天気は左右されないのが良かったとの意見が寄せられた。しかし、会場が広すぎて不便、空調が悪かったなどの否定的意見も寄せられており、今後の開催において一考すべき点であろう。また、聞けなかった発表や講演をDVDやVTRで聞ける工夫をして欲しいなどの意見も寄せられており、DDWの発展とともに解決しなければならない問題も提起された。その他、プログラム等に関する意見も散見された。以上のような貴重な意見を今後の課題として真摯に受け止め、その解決と改善のための努力が必要と考えるが、全体としては成功した学会であったとの印象を受ける内容であった。

また、DDW-Japan 2005 は、阪神・淡路大震災発生から10年という節目の年に神戸の地で開催されることもあり、市民公開フォーラム「阪神・淡路大震災と災害時医療」を開催したが、市民の皆様からも評価されたとの印象も受けた学会でもあったと考えている。

最後に、アンケート調査にご協力いただき、貴重なご意見を多数お寄せいただいたことに対し深く感謝申し上げますと共に、今後の更なるご協力とご支援をお願いする次第です。有り難うございました。

文責 DDW-Japan 2005 広報委員長 松枝 啓